

梅雨期の雨量

(多度津の六月の雨量と
臺北の氣壓との相關)

田 縁 頼 義

雨量の豫想に就ては各地で研究された者がある、私も人真似に多度津の梅雨期の雨量に就て調べて見やうとした。まづ雨量なるが故に氣壓と相關して居るだらうし、梅雨なるが故に支那南部、臺灣あたりの氣壓が關係深からうと云ふ考へからまづ臺北の一月の氣壓との關係を見た、茲に梅雨期の雨量と稱しても實は六月中の者であることをお断しておく

臺北の一月の氣壓が低い年には、その年の多度津の六月の雨量は多い、明治三十八年から大正元年までのに依つて計算したら相關係数は(一〇、六五である。

次に少し得手勝手であるが、同じく臺北の一月と四月との氣壓を組み合せ(之をAとする)今の雨量(B)との相關を調べて見たら、次の様な者を得た。但しAは

{(一月ノ氣壓) - 760} + {(四月の氣壓) - 760}

と云ふ者である

黒點數 95 27 50 24 419 628 29 645 473 453 200 54 36 14 96

B 42 187 124 77 153 268 159 134 103 258 187 189 37 138 203 191 82 174

A 5.9 4.5 6.2 7.1 7.0 3.7 5.9 6.0 6.8 3.9 5.4 4.4 9.3 6.7 8.4 7.4 6.5 7.0

年 3 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 2 3 4 5 6
明 大正

之を見ると三十四年から二年までの間は負の關係であるが二

年より後は正の關係になつて居てしかも相關の頗る密接して居ることが分る、そこで明治三十四年から大正二年迄と大正二年から六年までを別々にして相關係数を求むれば次の値を得る

明治三十四年—大正二年 $r = -0.829$ $w = \pm 0.058$
大正二年—大正六年 $r = +0.825$ $w = \pm 0.098$

茲に注意すべきは太陽黒點數の周期の谷である、表に示しある如く、明治三十四年と大正二年とが其谷であつてそこを境として逆の相關になつて居る事は面白いと思ふが、偶然の事であらうか、尙ほ後の研究に俟ちたいと思ふ。

紹介

雨雪に溶解せる物質

シアーマン、シエーフアー

雨雪に溶解せる物質の量及び其性質に就きて測定するのは極めて興味あり又大切な事である。私は數年間コロネル大學に於てなされたる雨雪に關する分析に關與したのである。

分析に用ひたる材料はアイオワ州のマウントヴァーノンと稱する村の中央に近き開豁地に於てユナメルを塗りたる皿に蒐集された、このマウントヴァーノンは工場地の中心より一七哩も隔りたる處に位し人口約二千百餘ある地にして且其地には工場がない處である、其材料は蒐集されたる後出來得る限り敏速に分析し其方法は普通實驗室に於て行ふと同様に種々の準備につきては奇麗にし汚點のない様にして行はれた。

雨雪に關して材料四、五種が一九二〇年の八月一八日より一九二一年の七月一日に至る間に分析された、期間に二〇、